

世の中の課題解決提案へ

東海エレクトロニクス（本社名古屋市中区栄3の34の14）は、創業81年目を迎えるエレクトロニクスのソリューションプロバイダー。自動車やFA・工作機械関連企業をはじめさまざまな分野に半導体や電子部品を供給し、産業を支えている。人手不足の深刻化やデジタル技術の進展などを背景に、製造業は変革期の真ただ中にあり、東海エレクトロニクスに求められる役割も変わりつつある。創業家3代目となる大倉慎社長は「世の中の課題解決を提案するようなソリューションプロバイダーを目指している」と、力を込める。



< 6 >

◆材料商になる決心

戦後間もない1945年に「東海物産」として創業。大倉社長の祖父でもある江口三次氏が、空襲で焼け野

「これからは何を動かすにもモーターが欠かせなくなる」。そう直感し、モーターの材料商になる決心を固めたという。

原となった名古屋の街を歩き、たまたま目にしたモーターに、大きな可能性を感じたのが始まりだった。

三菱電機名古屋製作所から、不足して困っていたモーターの資材である絶縁紙の調達を引き受けると、戦火を免れた静岡県の製紙工

東海エレクトロニクス社長

（おおくら・しん）

大倉 慎氏



「100年企業に向かって歩みを進めたい」と話す大倉社長

場を訪れ、目当ての絶縁紙を探し出した。こうして信頼関係を構築。電機関連の卸商の体制を整えていき、その後、高度経済成長期の訪れとともに順調に取り扱い品目を増やし、事業を拡大していった。

93年には、江口氏の娘婿にあたる大倉偉作氏が、2代目の社長に就任。江口氏は会長に就いた。偉作氏は、中華圏や東南アジア、北米と相次ぎ海外拠点を開設し、グローバル展開を加速。自動車のエレクトロニクス化の流れを受けて自動車分野との取引拡大にもまい進した。組織を改編するなど社内での体制強化も図った。

◆バトンタッチ

2013年、現在の、大倉慎社長にバトンタッチ。この頃の思いを、慎社長は

チームワークに磨き

製品供給
子どもと



チームワークを生かしていく

らないと、心の底から思った」と語る。

卒業後はいったん、沖電気工業に入社。経理や半導体の海外営業、ドイツ拠点への赴任……と学びを深めた。「そろそろ、戻ってこないか」と声が掛かり、06年に東海物産（現東海エレクトロニクス）に入社。常務、副社長を経て3代目社長に就いた。

◆100年企業

現在、就任から14年目。これまで、メーカーの「代理店」から、「お客さまの課題を解決するソリューションプロバイダー」への転換を進めてきた。今後、次の世代の育成にも本腰を据えたいと考えている。

私生活では、大学2年生の開くん、高校3年生の佳くんの、2児の父。「自分は父に自分のやりたいことをさせてもらった。子どもにもそうしてあげられれば」と、子育ての極意を胸に刻む。

「東海エレクトロニクスが持つ、高いチームワーク力にいつそう磨きをかけながら、ソリューションプロバイダーとして、世の中に役立つ、必要とされるものを提供し続けていきたい」。業界再編も起こっているエレクトロニクス業界。理念を共有できるパートナーともタッグを組みながら、100年企業へ向けて歩みを重ねる。

（第2・4月曜日に掲載）

【プロフィール】98年一橋大経済卒、06年東海物産（現東海エレクトロニクス）入社。10年常務、11年副社長、13年から社長。54歳。名古屋出身。

